

有明海海岸堤防について

佐賀県 東 島 盛

1. 干拓の生成と現況について

有明海沿岸の干拓は、所謂「へどろ」と呼ばれる特殊の軟弱地盤の上に構築されたものであり、1.6米に及ぶ潮位差と相まつて、土價的にも、水理的にもいろいろな問題が残されている。現在オ一線堤防の多くが、9号、102号の台風により相当の被害をうけているが、その構造上の種々の点につき検討されるなければならない。

2. 高 潮

i 高潮の原因

イ、潮 位

ロ、台風時の気圧低下による水面上昇

ハ、吹寄せによる水面上昇

ニ、波 浪

ii 過去の高潮

iii 9号及び102号台風による高潮

3. 堤防の構造

i 現在堤防構造の他県との比較

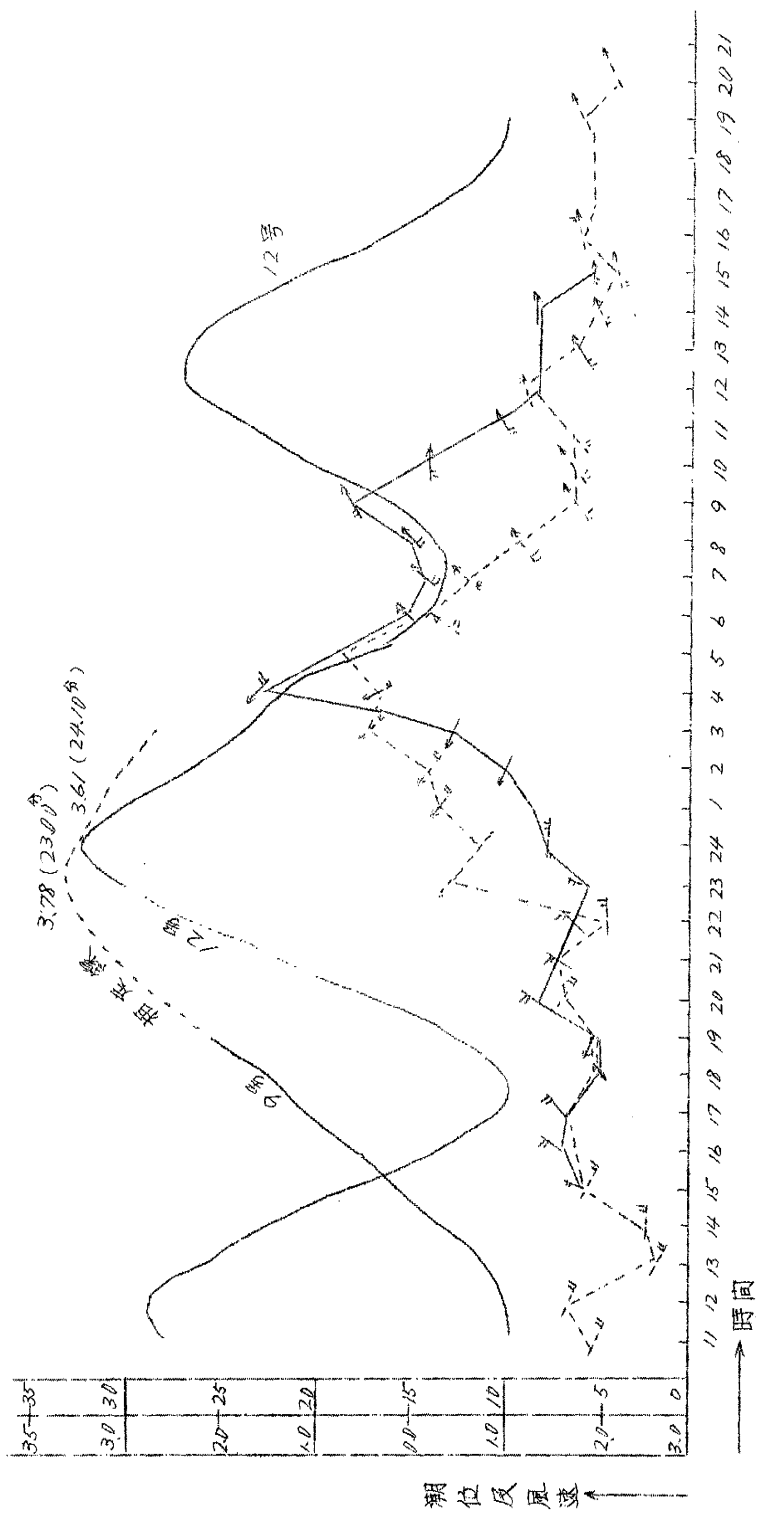
ii 堤防高の決定

iii その他構造上の問題について

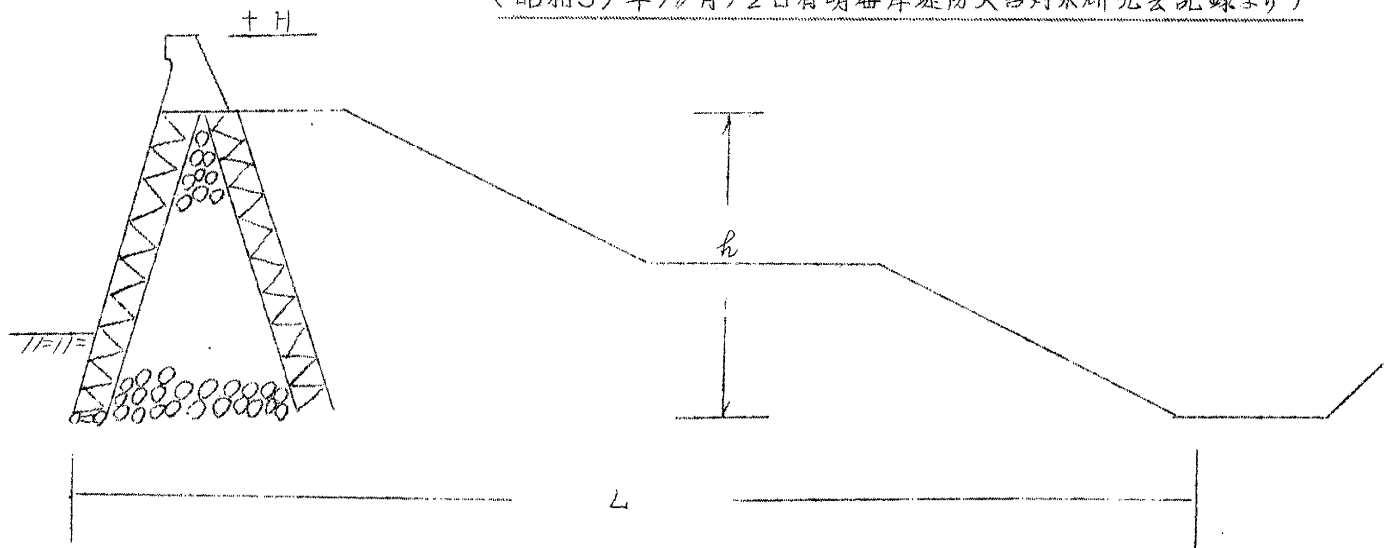
4. 結 論

昭和31年9号(8月16~17)12号(9月9~10)台風々向風速潮位図

—— 9号台風(最大風速22.0m SE 4時10分)
 —— 12号 (" 19.0m SSE 5時)



(昭和31年12月12日有明海岸堤防災害対策研究会記録より)



熊本県					福岡県					佐賀県				
海岸名	H	b	L	$i = b/L$	海岸名	H	b	L	$i = b/L$	海岸名	H	b	L	$i = b/L$
荒尾	6.4	4.6	17.0	0.27	橋本	7.4	5.0	19.0	0.26	建設省関係				
西ノ郷	6.5	6.1	15.0	0.40	長采	7.9	4.8	17.0	0.28	元治昭和	5.7	4.6	21.0	0.21
鍋	6.2	5.8	21.0	0.28	橋本	7.4	5.0	18.0	0.27	明九大正	5.1	3.4	27.0	0.16
種島	5.7	7.4	24.0	0.31	石垣	6.2	4.2	16.0	0.26	手徳大授	5.4	4.9	31.0	0.16
小白	6.3	4.2	14.0	0.40	"	6.8	5.0	17.0	0.30	新地	4.8	4.3	18.1	0.23
住吉	5.8	4.8	18.0	0.26	"	7.4	4.6	17.0	0.27	社場	5.1	5.1	17.3	0.30
長保	6.5	7.0	19.0	0.31	"	6.6	5.5	17.0	0.32	林源太郎	4.5	2.5	13.0	0.19
大相	7.3	5.4	14.0	0.38	文永治	7.0	4.2	16.0	0.26	志三番	5.2	3.8	21.0	0.18
永広	6.3	5.2	14.0	0.37	"	6.4	5.0	16.0	0.31	昭和大典	6.1	4.5	19.5	0.23
横島	6.1	4.6	13.5	0.34	明治	6.5	4.5	13.0	0.34	大橋	5.0	3.2	18.0	0.18
大豊	6.1	6.1	21.0	0.29	深倉	6.4	4.5	15.0	0.30	富山	5.0	4.0	17.0	0.24
受免	6.4	7.1	19.0	0.36	有明	7.4	5.5	20.0	0.27	平均	5.19	4.0	20.3	0.208
乙留口	5.7	5.0	18.0	0.28	平均	6.94	4.8	16.7	0.287	農林省関係				
堀屋	6.1	5.0	18.0	0.28	長崎県					大詔岡	6.0	4.8	14.5	0.33
平均	6.24	5.6	17.5	0.327	海岸名	H	b	L	$i = b/L$	南川副	6.0	4.4	14.0	0.31
					川内	5.35	3.2	12.0	0.26	西川副	6.0	4.6	13.5	0.34
					長田	"	3.1	13.0	0.23	東与賀	6.0	3.0	11.5	0.26
					"	"	3.1	13.5	0.23	久保田	6.4	5.2	15.0	0.34
					山田	5.5	3.4	13.0	0.26	大福	6.1	4.2	14.0	0.30
					小長井	5.5	3.1	9.5	0.32	稲富	5.5	3.5	12.0	0.29
					小江新聞	4.15	4.0	12.0	0.33	入平	6.3	6.0	41.0	0.14
					平均	5.20	3.3	12.2	0.271	有明	7.0	6.8	24.0	0.15
										平均	6.15	4.7	20.0	0.273
										全体平均	5.68	4.1	20.1	0.239